



## A I M S プログラムについて (ASEAN International Mobility for Students Programme)

### ● A I M S の概要

- 名 称： A I M S (ASEAN International Mobility for Students Programme)  
(旧名称：Malaysia-Indonesia-Thailand (M-I-T) Student Mobility Programme)
- 経 緯： 2010年に開始した、マレーシア・インドネシア・タイの各国政府共同による学生交流支援事業。2015年までの「A S E A N 共同体」に資する学生交流メカニズムの開発、国にとどまらず国際的な視野をもった大学の育成・人材の輩出を目的とする。2012年に、4番目の参加国としてベトナムが加わり、「A I M S」に名称変更。さらに、2013年には、フィリピンおよびブルネイが加わり、日本も参加することとなった。
- 参 加 国<sup>1</sup>： マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、ブルネイ、日本
- 交流分野： 学部学生を対象とし、2011年に交流分野として5分野を指定。  
(Hospitality and Tourism、Agriculture、Language and Culture、International Business、Food Science and Technology)。  
なお各国は、将来的に交流分野を拡大することで合意しており、2013年に2分野（Engineering、Economics）を加え、交流分野は7分野に拡大した。
- 交流形態： 単位互換および認定を伴う交流
- 財政支援： 互恵性の原則に基づき、各國は年間25名の学生に対して財政支援を行い、派遣・受入のバランスをとるよう努める。
- 言 語： 原則英語
- 単位互換： プログラムを通じて得た単位の互換は、UMAP<sup>2</sup>の単位互換方式(UCTS<sup>3</sup>)を推奨。また、単位互換プロセスの円滑化のため、学修計画書や成績証明書の様式を提示。

### ● A I M S の特徴

#### ○国際連携オフィスの設置

- プログラムの効果的な運営や相手大学との円滑な連絡調整のため、各大学は国際連携オフィス（IRO : International Relations Office）を設置。

<sup>1</sup> 参加大学の情報については、日本学術振興会ウェブサイト「平成25年度大学の世界展開力強化事業」公募・申請関係資料の「AIMSリスト掲載大学」を参照のこと。なお、フィリピンの参加大学については、平成25年6月13日現在で「未確定、確定次第更新予定」となっている。

[http://www.jsps.go.jp/j-tenkairyoku/data/download/11\\_tenkaih25\\_aimslist\\_130613ver.pdf](http://www.jsps.go.jp/j-tenkairyoku/data/download/11_tenkaih25_aimslist_130613ver.pdf)

<sup>2</sup> University Mobility in Asia and the Pacific(アジア太平洋大学交流機構)の略。UMAPの情報については、文部科学省ウェブサイト「UMAP(アジア太平洋大学交流機構)」を参照のこと。

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/007/gijiroku/030101/2-8.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/007/gijiroku/030101/2-8.htm)

<sup>3</sup> UMAP Credit Transfer Scheme(UMAP 単位互換方式)の略。UCTSの情報については、UMAP同様上記ウェブサイトを参照のこと。

## ○レビュー・ミーティング

- ・ プログラムの現状把握や現実的な課題について検討するため、レビュー・ミーティングを定期開催（年2回）。各国の政策担当者、評価者、プログラム参加校が出席。

### ＜開催実績＞

- 第1回： 2011年1月（於：タイ・バンコク）
- 第2回： 2011年9月（於：インドネシア・バリ）
- 第3回： 2012年3月（於：マレーシア・ペナン）
- 第4回： 2012年11月（於：ベトナム・フエ）
- 第5回： 2013年3月（於：インドネシア・ジョグジャカルタ）

## ○プログラムの拡大方針

- ・ 2009年に掲げた当プログラムの数値目標は次のとおり。
  - 2011年までに「交流学生数150名、参加国数 3か国、交流分野 5分野」
  - 2013年までに「交流学生数300名、参加国数 5か国、交流分野 7分野」
  - 2015年までに「交流学生数500名、参加国数10か国、交流分野10分野」
- ・ 交流学生数は、2011年9月時点で300名を超え、2013年までの目標値に到達。
- ・ 参加国については、2013年6月時点で、7か国（マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、ブルネイ、日本）が参加している。

## ○「AIMS」ハンドブック

- ・ AIMSの実施機関であるRIHEDは、2012年6月にAIMSに関する公式ハンドブック「ASEAN International Mobility for Students (AIMS) Programme Operational Handbook」を作成している<sup>4</sup>。新規の参加国や大学に向けて、参加準備に必要なステップ（対派遣大学・受入大学・学生）や、大学に向けたプロトコル（留意点）を掲載。

## ○質保証のプロジェクト－「iAward」<sup>5</sup>

- ・ 東南アジアの大学における国際化を推進するためのプロジェクト。MIT学生交流プログラム（AIMSの旧名称）の時代に発足。参加プログラムに対するアセスメントを実施し、優秀事例を表彰する。

### 【出典】

*The 3rd Malaysia-Indonesia-Thailand (M-I-T) Student Mobility Programme Review Meeting, 2012年3月*  
<http://www.rihed.seameo.org/mambo/2011/MITppt.pdf>

*The 2nd Malaysia-Indonesia-Thailand (M-I-T) Student Mobility Programme Review Meeting, 2011年9月*  
<http://www.rihed.seameo.org/mambo/2011/overview.pdf>

<sup>4</sup> 同ハンドブックは、日本学術振興会ウェブサイト「平成25年度大学の世界展開力強化事業」公募・申請関係資料の「AIMSプログラム運用ハンドブック」（2012年6月作成）を参照のこと。  
[http://www.jsps.go.jp/j-tenkairyoku/data/download/06\\_tenkaih25\\_aimshb\\_130613ver.pdf](http://www.jsps.go.jp/j-tenkairyoku/data/download/06_tenkaih25_aimshb_130613ver.pdf)

<sup>5</sup> 「iAward」の概要は、当機構がまとめた資料（下記ページに掲載）を参照のこと。  
[http://www.niad.ac.jp/n\\_kokusai/info/iaward/](http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/info/iaward/)